

# 「ポジティブリストの裏側」

毎日新聞の小島正美

2011年11月1日食品保健科学

# いまはどんな時代か？

科学が通用する時代ではない

生茶と荒茶の規制

- ・厚生労働省の幹部 = 「煎じれば薄まるから大丈夫と言ってしまおうと、必ず市民団体などが荒茶を検査して「こんなに高い値が出ました」と騒ぐに決まっている。だから、認められない。厚労としては、どんな行程、段階でも500を絶対に超してはならない」。

# 食品安全委員会の5ミリ

食品安全委員会は3月下旬、現行のままのセシウム年5ミリS以下をとりまとめた。

- ・厚労省の幹部 = 「ホッとした。これで世間から批判がこない」
- ・「永遠に暫定のままていくのが一番よい」と思っていたら、農水から、「早く規制値を」と。
- ・厚労省幹部から「5ミリでいこう」
- ・食安委「緩めたら世間から何といわれるか」

# 記者の「基準」観

1692年3月11日第3種郵便物認可

汚染米転用

4/3 A 京都の保育園など

**給食用にメタミドホス**

基準値の2倍

米販売会社「三笠フーズ」(大阪市)が農薬などに汚染された事故米を食用に転用していた問題で、京都市は12日、市が三笠フーズから回収した事故米について、市が三笠フーズに通知した。市が三笠フーズに通知した。市が三笠フーズに通知した。

2008年(平成20年)9月13日(土曜日)

メタミドホス検出

三笠フーズ出荷のもち米

京都の保育園 高年齢施設 基準値の2倍

カビ毒や残留農薬で汚染された「事故米」が食用として不正に転売されていた問題で、米粉加工会社「三笠フーズ」(大阪市北区)が出荷し、給食用として京都市内の保育園と高齢者施設(計二カ所)で使われていたもち米の在庫から、基準値の二倍の殺虫剤「メタミドホス」が検出されたことが十三日、京都市の調べで分かった。もち米は大半が消費されたが、健康への直接の影響はない濃度といわれ、健康被害は報告されていない。(関連記事5面)

三笠フーズから流通していたが、信頼性も揺らした事故米を含むコメの在庫となった。京都市によると、市内物産が検出されたのは初めて。同社は「出荷前のはじめ、外部検査で残留農薬が基準値を下回ったことを確認して販売した」と話した。

のうちに在庫が残っていた。市衛生公署研究所で三笠フーズから回収したコメを再検査していた。検査では「上賀茂保育園」(北区)と、介護老

給食に事故米が使われた保育園の説明会に向かう保護者ら(12日午後、京都市北区)

9/13H



# 記者のリスク観

基準値を超えると、健康に良くない、健康影響の目安

見出しはどの新聞も同じ。基準の何倍か意味あるか

テレビの「セシウム君」は猛批判された。週刊誌の「セシウム米が実る秋」はいいの？

・記者たちはおもしろ、おかしく書く

# 記者たちの価値観

大規模な効率的農業はよくない。農民は地べたをはって苦勞するもの

巨大企業に農業が支配されるのは“悪”

工業的な畜産やGMは食を脅かす

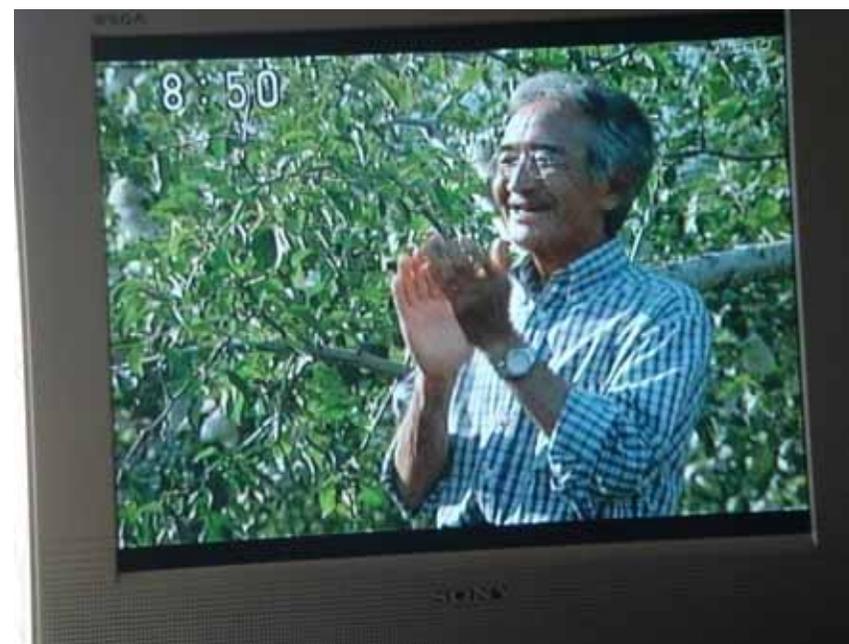
世界均一のマックは食文化を破壊する

有機農業は善。

・内田氏の論に共感する記者は多い

「わかりやすさと思いこみ、資本主義、物質文明に否定的」「大量に記事が書ける」

# 有機リンゴはすばらしい？



# 木村さんのリンゴ物語

すばらしい感動ストーリー

無農薬に挑戦し、9年間無収入

キャバレーでも働く

やっとつかんだ無農薬、有機のリンゴ

普遍的な栽培ビジネスモデルではない

すばらしい芸術、アートではある

メディアはそのストーリーに感動する。安全、健康とは無関係。フジコ・ヘミングと同じ！

# バイアスは記者の思考から

有機食品は「善」= 記者たちは無条件によいことだとして、記事を書く

有機推進派のいうことに何の疑問を抱かない(具体的な記事を試してみよう)。

なぜか、入社してから、先輩もずっと書いてきた。有機の記事は喜ばれる。経験から。

よいと思われる記事の持続的な記事の再生産

# 有機農産物は本当に安全か？

アレルギーは有機の方が多い。虫食いの大豆の方がアレルギーが多い。農薬をかけて、おとなしく育ったリンゴを食べた方が、アレルギーの反応が少なかった

キャベツに含まれる発がん物質は、病気に強い有機品種の方が多い。

天然の作物には天然の発がん物質(化学物質)がたっぷり。表を見てほしい。

ハネセンナに紫外線を吸収する物質。これがアレルギーにもなる

# 有機作物は健康的？

英国の食品基準庁は7月、重要な報告書

「安全性同じ。栄養価、健康への効果、の点でも、通常の作物と差はない」

健康長寿者は何を食べているか

「有機を食べている」はほぼゼロ。

フィンランド症候群

ヒノキのフィトンチッド(森林成分)は発がん性物質でもある

# 地産地消は正しい？

記者たちの頭には、最初から記事になるものが決まっている

地産地消はすばらしい

天然酵母のパンはすばらしい

脱サラリーマンして、自給自足すばらしい

植物油は健康によい

重油を使う温室栽培のトマトは本当にすばらしいの？たとえ地場のものでも？

# 地場のトマトは環境によい？

ハウス栽培のトマトは化石燃料で成立  
栽培に使う肥料、農薬はどこで生産  
水はどれだけ使う

ビニールハウスの原料はどこで生産  
育種はどこで？

地場のトマトも、実はグローバリゼーションの  
産物。

有機農産物の車で宅配？おかしいのでは？

# 言葉の力

事故米、汚染米、不正米、カビ毒米

「汚染」を何度も読んだ人は、危険な米だと判断

行政の怠慢が招いた 怠慢米

記者たちは勝手なイメージで言葉を選ぶ

汚染米は適切な表現ではない

見出しに「健康被害」がなければ、心配なし

# 残留農薬の違反

基準値は作物ごとに異なる。500倍の差。

ウナギのジコホルは0.01 ppm、肉は1 ppm、  
キャベツは3 ppm。基準オーバーと健康被害  
は無関係。生産者への注意で十分

健康被害の有無はADIで決める。ADIを超え  
たら、流通と農薬使用禁止。欧米はこれ。

基準違反が増えたのは検査数が増えたため  
。中国の違反率は高くない。

# リスク報道ガイドライン案

残留農薬基準違反 = 健康被害ではない。「基準の2倍」の見出しは意味なし。基準オーバーは生産者への警告とすべきだ。「管理目標値」違反という言葉にすべき。

健康被害はADIより、どれくらい低いかで判断する

基準値の代わりに「管理目標値」を提案する  
牛のえさは「暫定許容値」という言葉。なぜ？

# リスク対リスクの例1

水道水の塩素処理、やる、やらない

- ・やる = 発がん物質の増加、感染症の減少
- ・やらない = 発がん物質の減少、感染症の増加

水道水の浄水器の設置はどうか

「吸い込むトリハロメタンのほうが多い」

- ・浄水器で発がん物質の低下
- ・シャワーでの設置はどうする。30万円を使うかどうか。これが費用対効果の問題

## リスク対リスクの例2

【ホルモン補充療法】 = 更年期障害の改善 × 乳がんリスクの上昇

【9・11同時多発事件】 = 飛行機事故による死亡減少 × 車による事故の増加

【防カビ剤禁止】 = カビ毒の食中毒上昇 × 防カビ剤にばくろするリスク減少

【PSA検査】 = 前立腺がんの死亡減少 × QOLの障害の増加(おむつで長生き)

## リスク対リスク3

「マグロ、サバ、イワシなどに水銀、ダイオキシン、PCB、食べていいの？」

米国は週に魚介類340gまでの勧告、英国でそのとおり守った女性の子供と、魚介類を340g以上食べた女性の子供、どちらが言語知能は高かったか？(英国の調査)

勧告に従った子供の発達のほうが遅かった。  
魚をよく食べるメリットのほうが大きい

# 記者にないリスクは「量」いかん

リスクは、**毒性の強さ × 摂取量 (頻度)**

毒性が強くても、**摂取量が少なければ、リスクは低い**。しかし、メディアは有害な化学物質があれば、**危ないと報じる (東京新聞)**

**毒性は制御不能でも、摂取量は管理できる**。  
使用禁止で毒性をゼロにできるが、**摂取量でもリスクは下げられる**

これは食品添加物にもあてはまる

記者のリスク感「**危ないことは報道だけ**」

# 科学 & 政治、いまどういう時代か

・市民の「感情」が時代を動かす

科学が政治の奴隷、科学暗黒時代

天然、有機は安全、は幻想

添加物は危険、なぜいまも？

放射線は危ない

自給率は低いのは問題だ

いま大事ななのは、まっとうなリスク観をもつことだ

# いまは科学が政治の“奴隷”に

BSE (牛海綿状脳症) の全頭検査続く。

世界でも日本だけ。

政府もメディアも全頭を検査しても、感染牛が出荷されていることを説明しなかった。

メディアは間違っって伝えた

国産牛の安全性は担保されていなかった。ピッシングと危険部位の除去の遅れ、不徹底。

自治体の担当者は事実を熟知、知事が？

「科学的な説明よりも、世間の感情を重視」

# どういふリスク感をもてばよいか

食品の残留農薬、添加物、放射線、遺伝子組み換え作物、BSEは無視してよい

子供はどういふ原因で死ぬか、何が心の荒廃をもたらしているか。未来へのポジティブな思考。

大切なのは家族間の対話、仕事の仕方、ライフスタイル(食事の組み合わせ、規則性、睡眠、ストレスなど)

しっかりしたメディアリタラシーを身につける